

今年も神戸まわりパレードに参加
太陽にっこり
笑顔がいいわ
みんながいいわ



世界の子どもたちのために

Wish

ユニセフ兵庫ニュース

Vol. 21 (2007年夏)

毎日新聞社の「世界子ども救援キャンペーン」は、1979年に「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタート。その後、2001年に世界中の小さな命のために何が出来るのかを读者と一緒に考えていこうと、名称をあらためて再スタートしたものです。毎年様々な取り組みを展開されていますが、06年度は、大阪本社の社会部記者・福田隆さんが、スーダン南部を訪れ、「平和な普通の暮らし」を求める人々を取材、学校・民間企業などで報告会を実施されています。

昨年の6月、スーダンに降り立った福田記者の目に映ったものは、20年以上に及び内戦で破壊しつくされた町と、家族や家を失い食料も自由にならない中でやっと命をつないでいる人々や子どもたちの姿でした。

内戦の終結に伴い、国境沿いにあるケニア北西部のカクマ難民キャンプから、故郷に向けて出発する、映像でみる人々の顔には、これまでとは一変したさわやかな明るい笑顔があふれていました。けれども、皮肉な事に故郷に帰ってからの方がさらに厳しい状況が予想され、必ずしも平和な生活が保障されている訳ではないそうです。

最後に福田記者は、今はまず、世界中の人たちに、この厳しい状況の中で子どもたちがどのような生活を余儀なくされているかを知ってもらうことがとても大切な事だと感じています、と締めくくられました。

取材中には、危険な場面も何度か経験されたという福田さん、そんな中をくぐり抜けて来られたことが嘘のような冷静な語り口と優しいまなざしが印象的でした。

ユニセフ兵庫県支部のボランティアメンバーを含め35人の参加者からは、「胸がおしつぶされる思いです。私たちにも何かできることがあればいいのですが・・・」といった声が多く聞かれました。

毎日新聞社 福田隆記者による
スーダン視察報告会
「この命が消えていく」
6月23日(土)、「こころ」生活文化センターで福田隆さんを講師に毎日新聞の「出前報告会」を開催しました。



町に散乱する戦闘車両の部品、医療廃棄物、薬きょうなど、あらゆるものが子どもの遊び道具になっている(カボエタにて/毎日新聞希望のネットワーク提供)



内戦中に爆弾の破片が当たり
両手を失った14歳の少年

世界子ども救援キャンペーン報道写真展
スーダン写真展「この戦いの果てに」
6月22日～25日同時開催



ほんの何日か前ですが、日本の防衛省の大臣が「原爆投下はしかたない」という発言をして、連日批判をあびていますが、あの人は原爆が落とされた広島や長崎、あの時あの場所にいなかったからこんな発言が軽々しく出来るのだらうと思います。しかし、僕たちもあの時、あの場所にいたわけではありません。正直言うとお話を聞くまでは原爆というものは「怖いものだ」という認識しかありませんでした。普段と変わらない朝を迎え、太陽の光が差し込み、夏の暑さを感じる世界が一瞬にして目の前が真っ暗になっていく、皮膚が垂れ下がり目の前は血だらけの人、骨が見えている人、大やけどをおって川へとび込む人がいたというお話を聞いて、原爆というものがこんなに人の姿を変えてしまうものだと思えて恐ろしさを感じました。(中略)

最後の方におっしゃった「二度と過ちは繰り返しませんから、安らかに眠りください」と平和公園の石碑に刻まれたという言葉。今、世の中は北朝鮮の核の保持問題やイラクの問題など戦争という過去の過ちがもう一度繰り返すようなことがあるかもしれない。(中略)

戦争のない平和な世界をつくるにはやはり国と国、世界の国々が助け合わないといけません。そういう平和をつくるために今私たちが出来ることは「知る」ことだと思います。ですから今回、このような機会をえることができると本当に良かったと思うし、「平和」という事を考える第一歩になったのではないのか、そう思いました。(O・T)

広島原爆について中学の教科書で習ったことがあったが、ただ1945年8月6日に投下された歴史事件として知らされた。今日は広島原爆を体験した竹本さんの話を聞いて、広島に原爆が落とされたのは1945年8月6日、一発の原子爆弾によって市街の建物は一瞬で砕かされるとともに人々の命をなくし、今もそのせいで多くの人々が苦しんでいる。原子爆弾が爆発した一瞬で熱線や爆風や放射能など大量の破壊、殺しを引き起こされた。竹本さんの話で原爆にあたって皮膚が垂れ下がった人、目玉が飛び出したという話をされた。自分が体験してなかったが、話を聞いてみんな苦しんでいる顔が想像できる。戦争で得られるのは苦しみだけだと思う。原爆の恐怖を体験した竹本さんの話を直接聞くと本当に辛い。あの話の中で特に印象的だったのは原爆が落ちた後、水を欲しがらる人々に水を飲ませない言葉だった。「死んでもいいから飲ませて」。もし私がその立場に立たされた時にどう選択をするか

帝塚山大学生からの感想
被爆体験に学ぶ つなぐ想い
7月2日(月)、帝塚山大学・平和学の授業に、学外講師として兵庫県支部の竹本成徳会長が、自らの被爆体験を語りました。これは昨年度から「ユニ・ボラ塾」でお世話になっている、同大学の末吉洋文准教授からの依頼で実現したものです。みなさんからいただいた感想を一部ご紹介します。



帝塚山大学での竹本会長「広島を通して平和を語る-最後のトマト-」

かかと考えた時、私もわからなくて迷ってしまった。

原爆はもう二度と同じ過ちを繰り返すことのないように祈る。原爆の恐ろしさや戦争の愚かさをみんなが忘れない。核兵器の廃絶と世界恒久平和確立への努力を強めなければならないと思っている。(T・S)

私たちには知りえない壮絶なお話に鳥肌がたちました。まず、原爆にあうと目玉が飛び出て、鼓膜が破れてしまうということに驚きました。それほどのものを利用して、攻撃しあっているなんて異常だな、と思いました。そして、竹本さんが必死に生き残ろうと前に進んだことに感動しました。私がもしあの時代に生まれていたら、きっと泣き叫ぶだけで終わったと思います。竹本さんはなんとでも生き残らなければならないと思ったのでしょうか。その強い意志のおかげで今日、貴重なお話を聞かせて頂けたことを有難く思います。もし、またあの時の様に今の日本に原爆を落とされてしまったら、竹本さんのように「生」に執着心をもち必死で生き抜こうと思えました。1時間半しかお話を聞けなかったことは残念に思います。ですから、もしまた機会があれば今度はもう少し長くお話を聞かせて頂きたいです。(H・M)

今回の竹本さんの戦争の実体験のお話を聞いて、僕達自身は戦争を体験していないですが、本当に戦争の辛さを分かっていない僕たちの世代がそれをどう受け止め、どのようにその想いをうけついでいけるか、とても大切なことだと感じました。今の僕達の想像などではかり知れないくらいの悲惨さ、苦しさ、言葉には表現できないほどの想いがすごくて、いたく伝わってきました。

たくさんの大切な人を失っても世界のどこかで今もまだ戦争は続いています。竹本さんが僕達に伝えてくれた事、「戦争は誰が始め、誰が悪いのではない」として、そんな事を追求するのではなく、もう二度と同じ過ちを犯さないと思いつけることとおっしゃられ、とても共感できました。そして、これからの時代は本当に国同士が助け合い支えあえる世界になっていくよう願うばかりです。そして何より、一番は戦争で亡くなったたくさんの命を一人として、無駄にはせずその想い、痛みを通してこれから先ずっと背負って生き続けなければいけないことなのかもしれません。(T・Y)

2007 神戸まつりパレード



5月12日(土)、神戸まつりパレードに参加しました。今年は天候に恵まれ、青空の下、総勢100人余りが思いをひとつに歩きました。午後1時半ごろにスタートし、サンテレビにも放映されました。ご覧になった方も多いのでは? 来年はいっしょに参加しませんか?



私は、初参加だったので
楽しみにしていました

ユニセフカラーの風船で飾ったトラックを真ん中に、ボランティアや飛び入り参加の方も、ピエロ姿でハートパネルやうちわを持って、15分ほど歩きました。ボーイスカウトやガールスカウトの子もたちは、手作り楽器と「わー!」という掛け声で盛り上げてくれました。思ったよりたくさんの人が見に来ていて、兵庫県支部をたくさんの人にアピールできたと思います。来年もぜひ「unies」で参加したいです。
参加した皆さん、お疲れさまでした! unies 青木梨花



ユニセフボランティア入門講座

ユニセフのボランティア活動に関わるにあたり、「もっとユニセフのことが知りたい」という声から、この講座がスタート。活動経験年数に関係なく、いつからでも参加できます。今年は姫路と神戸で開催です。



上 4月28日
フの組織と歴史
下 6月30日
水と衛生
テーマ:ユニセフ
テーマ:保健

初回のユニセフの歴史や活動についての基本的な学習をふまえ、「世界子供白書2007」から「子どもの権利条約」について考えました。私たちの周りでも子どもの権利が守られていないこと



に気づいたり、何度が耳にしている、知っているようで知らないことが多く、ユニセフの活動の奥の深さに改めて感心したり。参加者それぞれが、自分にできることは何かを考える大切な講座となりました。

神戸市職員労働組合のみなさんには、ユニセフへの緊急募金をはじめ様々な形でご支援をいただいています



4月26日には「ソロモン諸島地震・津波被災地」へのカンパとして、大森委員長から竹本会長に手渡されました。また、5月17日(木)には市役所の会議室で、「ユニセフ活動写真&パネル展」を開催、矢田神戸市長や梶本副市長も立ち寄られました。そのほかにも、身近なところでのユニセフカード・グッズの利用として、参加賞として大量にご利用いただきました。

ボランティア入門講座を受けて

ユニセフの事が少し分りかけてきた日々の中で、4月28日の入門講座を受けました。ユニセフの歴史や活動を詳しく聞くことが出来、知らないことも多く「なるほど」「そうだったの」と驚きの連続でした。今この瞬間にも多くの子どもたちが成すすべもなく命をなくす悲惨な出来事が起きているなんて信じられない思いです。これからは、私に出来るお手伝いを少しでも永く続けて行けたらと思っています。(県支部ボランティア 丸谷裕子)

姫路でも開催

5月21日から3回シリーズ(6/18、7/9)で、ひめじオリーブの会でも「ユニセフボランティア入門講座」を開催しました。

日野原重明さんが日本ユニセフ協会大使に

日本ユニセフ協会は、2007年4月アグネス・チャンさんに続き、聖路加国際病院理事長・日野原重明さんを日本ユニセフ協会大使に任命。95歳の日野原さんは「野球で言えば私の年齢は9回ですが、私の一番大切な人生がこれから始まります。これからは子ども達のためにがんばりたい」と抱負を語り、今後も医師としての豊富な経験をもとに、講演会や著書などを通して、いのちの大切さや平和の尊さ、

そしてユニセフの使命を、子どもたちやその親たちに伝え続けてくれるものと期待されています。

【日野原重明さん著作紹介】

- ・「十歳のきみへ 九十五歳のわたしから」(富山房インターナショナル)
- ・「いのちのおはなし」日野原重明 文 / 村上康成 絵(講談社)
- ・「95歳からの勇気ある生き方」(朝日新聞社)など



©日本ユニセフ協会

ユニセフキャラバン・キャンペーンに参加して

県支部ボランティア 井口正子

5月23日・24日の2日間にわたって、ユニセフキャラバン・キャンペーンが兵庫県を訪れました。これは、(財)日本ユニセフ協会が、発展途上国の子どもたちの現状や、ユニセフ活動についての理解を得るために、4年間に全国を一巡して啓発活動を行うキャンペーンです。

1日目は、先生方40人を対象に、子どもの権利条約についてのワークショップなどの研修会を、次の日は、小学校・中学校の子どもたちを対象に、世界の子どもたちの現状についてのお話や、現地の子どもたちが水運びにつかう水がめや蚊を防ぐための蚊帳を触ったりする体験学習も行われました。

ユニセフのボランティアとして、2日間見学研修をさせていただき、子ども達の「私たちに何が出来るか」という素直な気持ちを受け継いでいかねばならないと思うと同時に、まだユニセフに接したことのない子どもたちや地域の人たちにユニセフの活動を伝える機会の間口をさらに広げたいとの思いを熱くしました。

「アンサンブル・ツヴァイ」15周年記念チャリティーコンサートに感謝して

県支部ボランティア 吉川景子

6月24日(日) 朝からの雨で出足が心配でしたが、芦屋ルナホールの会場には、多くの方が早くから席の確保のために並ばれていました。海外で活躍されている安永徹さん、市野あゆみさんの演奏があり、お忙しい中チャリティーコンサートを開いていただけなのは頭が下がる思いです。収益金の全額をユニセフ募金として提供いただきました。たくさんの方々の協力があったり成り立っているチャリティーに参加できて、私自身も有意義な一日であったと思えました。



今回のコンサートの収益金と当日の募金、259,878円をいただきました。会場ではユニセフカードの頒布も行いました。

ユニセフ県支部間の交流が始まりました

今年3月に誕生した愛媛県支部を含め、瀬戸内海を囲む支部の中でも交流が活発になっています。

5月19日(土)、大先輩の岡山県支部総会で「タンザニアスタディツアー報告」をさせていただきました。また、7月7日(土)には広島県支部で開催された学習会「もっと知ってみよう世界の国々」に兵庫から13名が参加、ワークショップやタンザニアツアー報告、交流などを通して有意義な時間を過ごしました。そして翌日には、足を伸ばし熊本県支部の「第15回アフリカの子どもの日」にも参加、このイベントを盛り上げようとする高校生や熊本の運営委員のみなさん、そして多くのアフリカの人たちに出会い、たくさんの方の元気をいただきました。

どの県支部とも、特長を生かした活動がボランティアさんの協力によって取り組まれていることを肌で感じ、とても心強く思いました。

今回は特別に、広島では原爆資料館や平和公園を広島県生活協同組合連合会の新谷さんや被爆体験者でもある兵庫県支部の竹本会長ともいっしょに歩かせていただきました。また、原爆投下時に広島で咲いていた「はまゆう」にまつわる貴重なお話を聞くこともできました。

ユニセフを通じて平和の輪が広がっていることを実感、この「情報や思い」の詰まった交流をこれからも続けていきたいと思えます。



広島、岡山、愛媛、香川、大阪のみなさんと、話の花が咲きました。

募金をいただきましたありがとうございます

六甲アイランド高校

4月25日(水)、生活福祉系3年生が募金を呼びかけ、神戸市社会福祉協議会を通じて贈呈がありました。

ボーイスカウト神戸第6団

毎年、神戸まつりパレードへの参加協力や、学習会・募金活動など積極的にユニセフ活動を行っています。



宮村音楽教室特別企画・子どもの日記念コンサート「関本昌平さんをお迎えして」

5月6日(水)、主催の宮村トヨ子先生が、事前に子どもたちにユニセフの活動を紹介し当日の募金を呼びかけてくださいました。

西宮ホワイトライオンズクラブ

6月13日(水)、毎年持ちきれないほどの外国コイン募金をいただいています。

KOBE エイズフェスタ2007



7月7日(土)、神戸国際会館で開催されたエイズフェスタにパネルなどを展示しました。

ユニセフ募金 ~ご家庭で学校で職場で~
いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どもたちの支援活動に使われます。

郵便振替でお願いします
口座番号:00190-5-31000
加入者名:(財)日本ユニセフ協会
通信欄に「K1-280兵庫」とご記入ください。

会員って

ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。

一般会員...個人ならどなたでも	1口	5,000円
学生会員...18歳以上の学生	1口	2,000円
団体会員...団体、法人、企業	1口	100,000円

申込み方法についてはお問い合わせください。

緊急募金のお願い

スーダン・ダルフル緊急募金
郵便振替:00190-5-31000
通信欄に「スーダン K1-280兵庫」と記入

アフリカ緊急募金
郵便振替:00190-5-31000
通信欄に「アフリカ K1-280兵庫」と記入

中東緊急募金
郵便振替:00190-5-31000
通信欄に「中東 K1-280兵庫」と記入

ソロモン地震・津波緊急募金
郵便振替:00110-5-79500
(送金手数料免除)
通信欄に「ソロモン K1-280兵庫」と記入

【共通】口座名義:財団法人日本ユニセフ協会
募金は郵便局指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。
ユニセフへの募金は寄付金控除の対象となります。

ボランティア募集

世界の子どもたちのこと知りたいと思いませんか? 学習会、イベント参加、カード頒布、事務局運営、広報など、関わり方はいろいろあります。若者たち(高校生~大学生)のグループUNIESも参加しています。活動を通じていろいろな人たちの出会いが広がります。一度のぞいてみてください。

- 学習会
- イベント参加
- カード頒布
- 事務局運営
- 広報

『ユニセフカードとギフト春・夏号2007』

カード・グッズの購入をご希望の方は、お問い合わせください。
☎078-435-1605



澤良世さん(元ユニセフ 国連児童基金 東京事務所広報官)によるシエラレオネ報告会

「ブラッド・ダイヤモンドの国シエラレオネ」

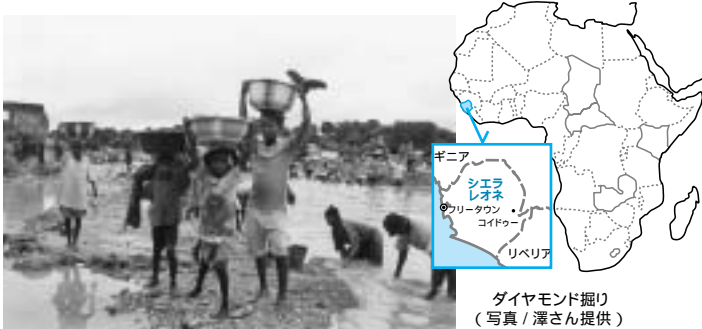
シエラレオネの紛争を通して、「アフリカの抱える問題」や平和に向けてどのような取り組みがなされているかを映像をまじえてお話をいただきます。あなたも、世界が抱える「アフリカ問題」を、まず知ることから始めてみませんか？

とき 9月8日(土)13:30~15:00

ところ コープこうべ生活文化センター
第3会議室(JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分)

講師 澤良世さん **参加費** 無料 要予約。当日参加も可能です。

澤良世(さわながよ)さんプロフィール
ユニセフ東京事務所広報官を長年(1985~2004)務め、定年退職後、東京大学大学院総合文化研究科修士課程に入学、現在博士課程に在籍。研究テーマは紛争後のシエラレオネにおける和解と平和構築。在任中は黒柳徹子さんの視察などに行き30以上の国や地域を訪問。



ダイヤモンド掘り (写真/澤さん提供)

今年も**ユニ・ボラ塾**が始まります

第1回目のテーマは「世界の難民」 **参加は無料**

とき 7月30日(月)13:00~15:00 第2回は9月開催予定。

ところ コープこうべ生活文化センター4階 第2会議室

講師 末吉洋文さん(帝塚山大学法政策学部准教授)

今、世界で最も深刻な課題のひとつである難民問題。現在920万人の難民と2000万人の国内避難民が安全を保障されない毎日を送っています。こういった難民の生活と現状・環境について先生にお話を伺います。

夏休みの一、親子で中東の文化にふれてみませんか？

「イラン入門~イランの暮らし・文化を留学生夫妻に聞く」

お話をいただくハレ(Haleh Haghadan)さんは、ご主人の留学に合わせて1年前に来日。ユニセフのボランティア活動をされています。そんなハレさんご夫妻から、生まれ育ったイランの文化・毎日の生活、風習など、懐かしいイランについてのお話を聞きます。

ハレさん手作りのイランのお菓子つきのティータイムもあります。

とき 8月4日(土)13:00~15:00 **参加は無料**

ところ コープこうべ生活文化センター5階 第5会議室
小学生以上は子どもだけでも参加できます。

プロサファリガイド加藤直邦さんによる講演会

「自然と動物・人間のための平和な地球」

厳しいアフリカの大自然の中で生きる動物や植物・人々の暮らしなどについて、スライド映写を交えながらお話させていただきます。タンザニアスタディツアーの報告やワークショップも予定しています。

とき 8月25日(土)10:00~12:00

ところ イーグレひめじ4階セミナー室A

講師 加藤直邦さん **対象** 小学生~大人
小学生以上は子どもだけでも参加できます。

参加は無料
夏休みの一、親子でアフリカの風を感じてみませんか？

地球のステージ3



温暖化するケニア、スマトラ沖地震で津波に襲われたスリランカ、アパルトヘイト後の南アフリカ...厳しい現実の中で生きる人々の強さを描き、なぜ紛争がなくなるのか、「死」とどう向き合い受け入れていくかなどを、静かに、深く、問いかけます。

地球のステージの進行役は...桑山紀彦さん
NPO法人地球のステージ代表理事。国際医療支援活動を続ける精神科医。医学博士。

主催: コープこうべ生活文化センター
協賛: 兵庫県生活協同組合連合会、コープこうべ好和会
後援: 日本ユニセフ協会兵庫県支部

~ 国境なき大地 ~

とき
8月18日(土)
開場13:00 開演13:30

ところ
コープこうべ生活文化センター
2階ホール

ところ
一般 (前売り)700円
(当日)1,000円
小・中学生 (前売り)500円
(当日)700円
チケット販売...生活文化センター、協同学苑、コープカルチャー

写真展「unicefと世界の子どもたち」

とき :7月21日~8月5日 10:00~17:00(最終日は15時まで)
ところ 三田国際交流プラザ(まちづくり協働センター キッピーモール6階)
参加費 無料

チャリティー 税所美智子八・トフルコンサ・トPart
音の向こうに時空 妖精の旅 「青い地球への讃歌」
とき 9月22日(土)昼公演15:00・夜公演19:00
ところ 兵庫県立芸術文化センター大ホール
入場料 2,000円 収益金の一部がユニセフ募金となります。

あ と が き

兵庫県支部ホームページ <http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

ヒロシマの体験は、実際そのとき・そこにいた方が、今そこを歩いておられる姿を見つめながら、共に歩かせていただくことで言葉に出来ないものが心に伝わってくる気がします。

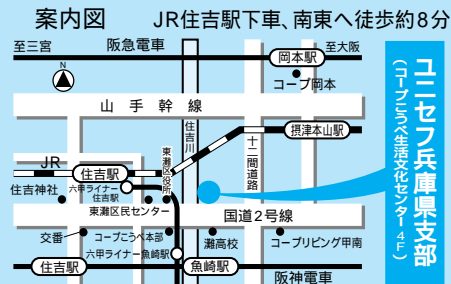
この想い、『Wish』紙面でみなさんにお伝えできたでしょうか？ 県支部間の交流も始まり、想いを共有する輪、広がっています。(K)

Wish

Vol.21号(2007年夏)

ユニセフ兵庫ニュース

2007年(平成19年)7月発行(季刊)
発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部
〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18
コープこうべ生活文化センター4F
TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830
(平日の10時~16時)



本紙は再生紙を使用しています。